

## 授業時数の弾力化に係るモデル校事業取組内容

## 1 研究構想

## (1) 研究テーマ

「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラムの工夫・改善  
 —各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用—

## (2) テーマ設定の理由

現行学習指導要領の基本方針として「各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」が示されている。教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを推進するためには、教科等の目標や内容を見通し、教科横断的な学習の充実を図る必要がある。熊谷市においては、「学力日本一」を目指し「新熊谷プロジェクト」を推進している。「新熊谷プロジェクト」では、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、教科横断的でオーセンティックな授業実践を通して、学力向上を目指しているところである。

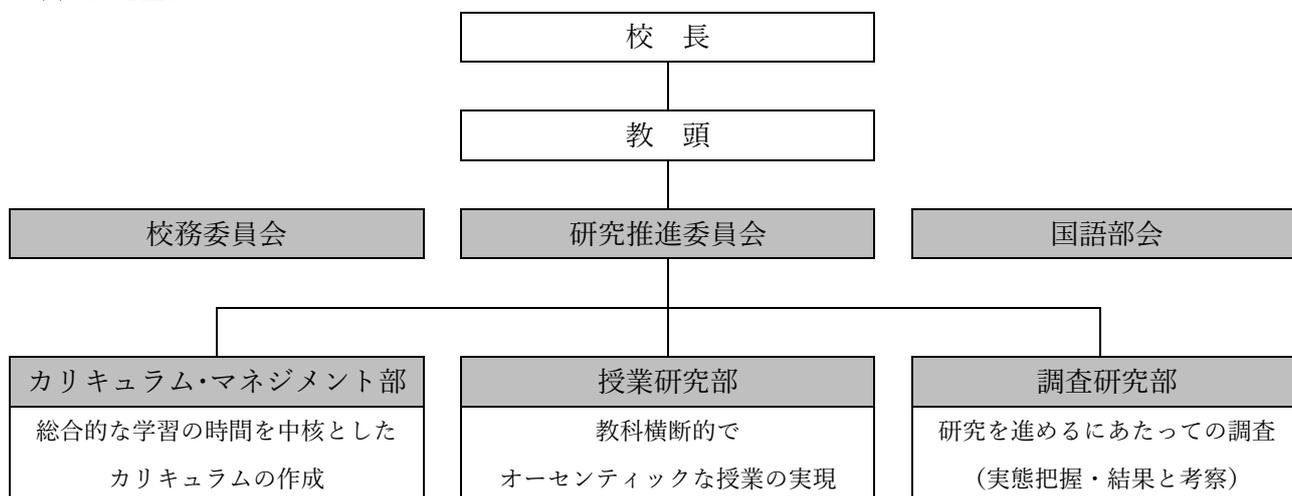
そこで本校では、県教育委員会から「授業時数の弾力化に係るモデル校事業」の指定を受け、本研究主題「『総合的な学習の時間』を中核としたカリキュラムの工夫・改善」を設定した。令和4年度実施の全国学力・学習状況調査の結果からは、実施教科共通で「自分の考えを、筋道を立てて記述すること」が課題として挙げられた。本校の実態を踏まえ、副題として掲げた「各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用」に重点をおき、研究を推進していくものである。

## (3) 研究仮説

関連する教科や複数の単元にまたがる学習内容を精選、統合するなど、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善を行い、教科横断的でオーセンティックな授業を実施することで、生徒に、知・徳・体のバランスのとれた学力を身に付けさせることができるであろう。

## 2 研究内容

## (1) 研究組織



## (2) 研究の流れ

年 月 日	事 業 内 容
4年2月	・令和4年度教育課程の編成
3月	・令和4年度研究計画の作成
4年4月19日	・全国学力・学習状況調査の実施、自校採点による分析
5月10日	・埼玉県学力・学習状況調査の実施
6月28日	・第1回研究推進委員会
7月5日	・学校研究課題打合せ会議
12日	・第1回授業時数の弾力化に係るモデル校事業研究協議会 【埼玉県立総合教育センター】
13日	・先進校視察【寄居町立男衾中学校】
20日	・第1回校内研修「総合的な学習の時間の教育計画の編成」
8月4日	・第2回校内研修「オーセンティックな課題事例集の作成」
8月中	・全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の結果分析
31日	・第3回校内研修「言語能力の育成と活用についての講義」
10月4日	・第2回研究推進委員会
17日	・第1回校内授業研究会（オーセンティック）
19日	・先進校視察【戸田市立戸田東中学校】
11月28日	・嶋野道弘先生によるご指導
12月7日	・第3回研究推進委員会
12月中	・生徒、教員アンケートの実施
5年2月1日	・第2回校内授業研究会（国語）
8日	・中間発表会 ・嶋野先生による講演「『総合的な学習の時間』を中核とした教育課程・授業の改革」
16日	・第4回校内研修「特別な教育課程の編成」
17日	・第2回授業時数の弾力化に係るモデル校事業研究協議会【オンライン】
21日	・第4回研究推進委員会
3月7日	・第5回校内研修「年間指導計画の確定」
3月中	・令和5年度研究計画の作成
5年4月18日	・全国学力・学習状況調査の実施、自校採点による分析
5月1日	・第1回研究推進委員会
10日	・埼玉県学力・学習状況調査の実施 ・第1回校内研修「研究の概要について」
6月7日	・北部教育事務所によるご指導
8日	・授業時数の弾力化に係るモデル校事業研究協議会【オンライン】
6月中	・第3回校内授業研究会（国語）
28日	・第2回校内研修「各研究部の会議」
7月4日	・第4回校内授業研究会（言語能力）
7月中	・生徒、教員アンケートの実施

19日	・第2回研究推進委員会
20日	・第3回校内研修「オーセンティックな課題事例集作成」
8月18日	・第4回校内研修「全国学力・学習状況調査の結果分析」
29日	・嶋野先生によるご指導
31日	・第5回校内研修「埼玉県学力・学習状況調査の結果の分析」
9月6日	・第5回校内授業研究会（1年総合） ・第3回研究推進委員会
10月4日	・第6回校内研修「発表に向けての資料作成」
12日	・第4回研究推進委員会
25日	・第6回校内授業研究会（2年総合）
31日	・研究発表会視察【久喜市立久喜小学校】
11月2日	・第7回校内授業研究会（2年総合）
21日	・第5回研究推進委員会
22日	・研究発表会視察【草加市立瀬崎小学校】
30日	・授業公開（3年総合）、研究発表会 ・嶋野先生による講演「変わる社会・求められる改革」
12月22日	・第6回研究推進委員会
6年1月中	・生徒、教員アンケートの実施 ・第8回校内授業研究会（オーセンティック or 言語能力） ・研究のまとめ
2月	・報告書の提出

### (3) 取組

#### ○ 授業時数の特例に関する取組

- ・3学年とも、総合的な学習の時間の授業時数を年間18時間増やし、国語の授業時数を10時間、社会、数学、理科、外国語の授業時数を2時間ずつ減らした。
- ・前期（20週）の間、時間割の中に「5科」という時間を設け、「ローテーション計画」を作成し、実施した。

#### ○ カリキュラム・マネジメント部の取組

- ・総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムの見直しを行った。
- ・授業時数を減らす分の各教科の学習内容・学習活動を、総合的な学習の時間の中へ移行した。
- ・年間指導計画の中に、探究的な学習の過程、言語能力表との関連、各教科から配当された時間と内容を明記した。
- ・各教科から配当された時間の「単元構想シート」を作成した。

#### ○ 授業研究部の取組

- ・各教科の学習の文脈を現実社会の実践に可能な限り近づけるため、「オーセンティックな課題事例集」を作成した。
- ・授業展開を全教科統一で指導するため、「三尻授業スタイル」を確立した。
- ・教科横断的な学びの実現のため、「学びボード」を設置した。
- ・校内授業研究会を企画、運営した。

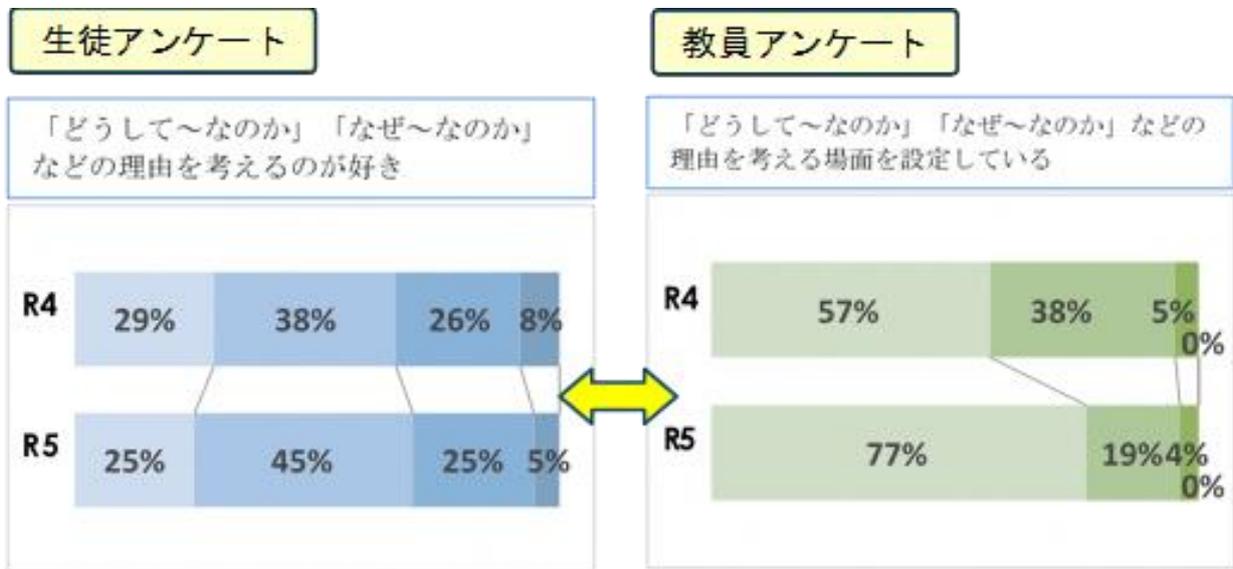
○ 調査研究部の取組

- ・実態把握、研究の効果の検証のため、各種学力調査の分析を行った。
- ・研究の効果の検証のため、生徒アンケートと教員アンケートを作成、実施、考察した。
- ・研究に関連する掲示物を作成、掲示した。

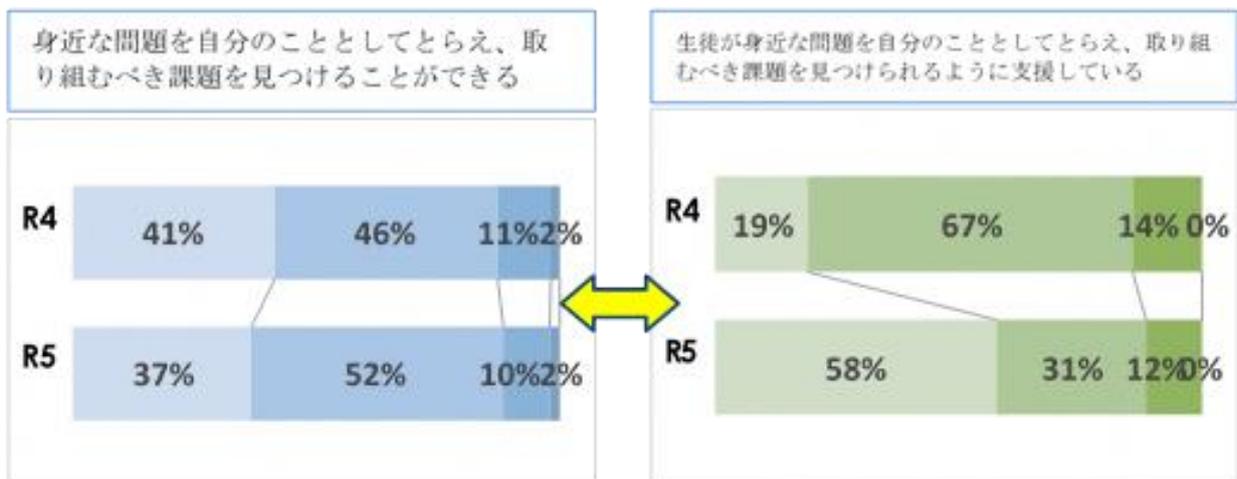
○ 国語部会の取組

- ・総合的な学習の時間における「探究的な学習の過程」に国語科の学習内容を位置づけ、「各教科等における『探究的な学習』で活用する言語能力表」を作成した。
- ・生徒にも言語能力を意識して活用してもらうため、言語能力表の重点項目を抜粋し、「中学校で身につけたい国語の力」プリントを作成した。
- ・「言語能力の育成と活用」について、全職員で共通理解を図るため、国語科教員3名による国語の授業を14時間公開し、授業研究を行った。

(4) 生徒アンケート、教員アンケート結果（抜粋）



探究的な学習の基となる課題設定において、疑問を持つことは欠かせない。教員が授業において意図的にこのような場面を設定することによって、生徒に変容が見られた。



オーセンティックな課題を軸とし、総合的な学習の時間のカリキュラム改善ができた。自らの考えや課題が新たに更新され、学習の繋がりが探究のサイクルを作り出すこととなった。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

○ 令和5年度全国学力・学習状況調査【生徒質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」】では、現3年生は旧学年中（令和4年度2年生）、テーマ「新熊谷プロジェクト」の一環で「未知タイム」に「熊谷」に焦点を当てた探究学習について年間を通して学習した結果、令和4年度3年生よりも前向きな回答を選んだ生徒が大幅に増えていた。研究主題「総合的な学習の時間を中核としてカリキュラムの工夫・改善」の推進を行った結果、テーマ「熊谷」を3年間系統的に指導することで、郷土愛が生まれ、「テーマ」に系統性を持たせることで、探究的な課題を自ら見つけ、解決しようという意識の醸成につながっていった。

○ 令和5年度全国学力・学習状況調査 全国平均正答率（％）との比較、国語3. 2 数学5. 0 英語3. 4 英語（話すこと）4. 6 上回っていた。特に国語(3)「我が国の言語文化に関する事項」9. 2％超、数学「D データの活用」10. 8％超、英語(1)「聞くこと」4. 7％超であった。

令和5年度埼玉県学力・学習状況調査 学力レベル（県平均との比較）現2年生は数学・英語2レベル、現3年生は3科すべて1レベル超であった。非認知能力的な側面においては、「主体的・対話的で深い学びの実施」や「学習方略」など多くの項目で県平均を上回っていた。

教科横断的な視点で、言語能力の育成と活用を各教科等の授業に位置付けたことにより、生徒の言語能力を重層的に指導することができた。その結果、各種調査において「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」いわゆる汎用的能力の向上が見られたのではないかと考えられる。

○ 国語科で身に付ける言語能力を一覧表に整理し、総合的な学習の時間等の年間計画に位置づけ、言語能力の活用を図ったことにより、既存の言語能力を生かして学習しようとする生徒が増えたことを実感している。学習の振り返りにも「以前より説得力のあるプレゼンができるようになってきた。」「今後、自分の意見を述べる場面では、今日学んだことを生かしていきたい」などの記載がみられた。国語科で学習したことを「未知タイム」で活用する、逆に「未知タイム」での取組で必要な言語能力を国語科の授業で学習するというように、生徒は今まで以上に学習の必要性を実感できるようになったと考えられる。

#### (2) 課題

○ 教科横断的な授業を進める際、教科担任制である中学校では、教科担当間の連携が不可欠となる。本年度、「単元構想シート」の活用や連携会議、教科を超えて授業を公開する研修等を通じ連携を図ってきたが、その在り方については更に工夫が必要である。

○ 「オーセンティック課題事例集」の作成を通じ、課題設定に重点を置き授業改善を図ってきた。今後は、授業全体を通じ、熊谷市が目指す「現実社会に存在する、本物の実践に可能な限り近付けた教科横断的でオーセンティックな学び」を実現すべく授業改善を図っていく。

○ 本年度のカリキュラム変更の考察については、現時点では十分とは言えず、年度の終了時、並びに次年度の生徒の姿・変容等から改めて考察する必要がある。